

第13回 武雄市まち・ひと・しごと創生推進懇話会会議録

日時：令和6年9月30日（月）

13:30～15:30

場所：4階会議室

<出席委員（敬称略）>

江口（武雄市観光協会）、長澤（佐賀女子短期大学）、鶴田（武雄金融協会）、田栗（連合佐賀南部地域協議会）、小杉（ケーブルワン）、坂口（区長会）、永松（市民団体）、庭木（女性ネットワーク）、土井（司法書士）、浦郷（武雄公共職業安定所）、亀崎（佐賀県さが創生推進課）、北川副市長
※欠席：梶川（武雄商工会議所）、松田（武雄市商工会）、田中（武雄青年会議所）、中島（佐賀県農業協同組合）、矢野（武雄市スマートシティ協議会）、江越（眉山の森保全の会）、

<事務局>

企画政策課（松尾部長、小柳課長、筒井係長、野田、村山）

1 開会【小柳課長】

ご多用の中、ご出席いただきありがとうございます。

只今から第13回武雄市まち・ひと・しごと創生推進懇話会を開催致します。

2 会長あいさつ【北川副市長】

お忙しい中、お集まりいただき感謝申し上げる。

第2期武雄市まち・ひと・しごと創生総合戦略」については、令和2年度から5ヶ年の戦略を策定しており、施策の実施状況について、評価指標に基づき評価検証を行うなどPDCAサイクルを実施することとしている。5月に令和5年度事業の検証を行ったばかりであるが、今年度は第2期総合戦略の最終年度であるため、この第2回目の懇話会を開催している。

今回の懇話会では、第2期全体の検証を行った上で、第3期の検討を行いたいと考えている。今後の武雄市の方針を示す重要な戦略であるため、皆様方の忌憚のないご意見及び助言をお願いしたい。

3 議題

- (1) 第2期 武雄市まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証について
事務局より概要説明。

○質問 ●提言・意見

(委員 A)

○有害鳥獣の農作物被害額について、出没数が増えている原因は何か。

⇒事務局) 担当課に確認後、回答する。

(会議後確認)

人の手が入らない山や田畠の茂みはイノシシの生息好適地であり、農林業の後継者不足に伴う耕作放棄地等の増加がイノシシ出没数の増加の主な要因と考えられる。

なお、被害額の9割以上が、イノシシによるものである。

(委員 B)

○観光消費額はどのようにして算出しているか。

⇒事務局) 県が公表している1人当たりの観光消費額に、市内の宿泊施設や観光施設で把握している観光客数を掛けている。

(委員 C)

○ケーブルワーンスポーツパーク付近で、今後スポーツ大会やイベントが開催されるにあたり、駐車場や宿泊施設不足が懸念される。市で、対策は検討されているか。

⇒事務局) 駐車場の確保について、新たに建設予定はない。既存の駐車場と白岩競技場の下の駐車場を使用していただくよう想定している。大学の設置認可が下りた際には、100台収容可能な駐車場を建設予定であり、大学が休みの日には市でも自由に使えるよう協議中である。
宿泊施設については、センチュリーホテルが改修中であり、今年度中に完成する予定である。

○ホームページによると、東川登工業団地が令和8年度上旬に分譲予定となっているが予定通りか。

⇒事務局) 災害の復旧作業の影響で当初の予定より遅れているが、現時点では令和8年度上旬の分譲を予定している。

(委員 D)

○団体の会合の際に、市内で会議室として利用できる場所が少ない。センチュリーホテルが再開された際には会議室の利用ができるのか。また、市内で大型の会議施設として利用できる場所はどこか。

●宿泊施設もあり、新幹線も開通しているのに、会議スペースとして利用できる場所が少ないとため、開催地として提案することができない。

⇒事務局) センチュリーホテルで会議室を設けるかについては聞いていない。文化会館の開館後は活用いただきたい。また、イメージされているものと異なるかもしれないが、大学開学の際には大学構内の講義室について市民へも開放いただけるよう協議している。

(委員 E)

○75歳以上人口および男女構成比は。

⇒事務局) 担当課に確認後、回答する。

(会議後確認)

令和6年9月末日における武雄市の総人口は47,011人、うち75歳以上人口は、男性は3,103人、女性は5,078人、合計で8,181人となっている。総人口に対する構成比は男性13.8%、女性20.6%。

(委員 F)

○空き家バンクの登録数を増やす取り組みとリノベーション補助金の関連は。

●空き家については、危険なので壊すパターンと移住とセットで打ち出して、資源として生み出して活用するという2パターンが考えられる。県内の市町では前者のパターンが多い中で、リノベーション補助金については素晴らしい事業であると感銘を受けたものである。

⇒事務局) 直接的に関連はないが、空き家バンクについては、(社)佐賀県宅地建物取引業協会と協力して実施している。リノベーション補助金については市外だけでなく市内の方にも活用いただいている。

(会議後確認)

登録物件を増やす取組みとして、福祉課との連携（施設入所後の自宅の相談があった際に、必要に応じて建築住宅課を案内する等）や、税務課の当初納税通知書チラシに空き家バンク概要を掲載するなどしている。

(委員 G)

○外国人観光客向けに、英語、韓国語、中国語表記を増やしていく必要があるのではないか。

⇒事務局) 観光のみならず、移住を推進していくという視点からも、環境整備が必要と考えている。第3期総合戦略策定にあたり反映したいと考える。

●今年度に入り、食費や電車賃がないなど、緊急性のある市民の声を多く聞く。本当に困っている方をどこで救済するのか、相談件数だけではなくどういうことで困っているのかという中身を分析することなども大切と考える。なお、市の相談体制は充実してきていると思っている。

⇒事務局) 市の相談窓口としては福祉課のまるごと相談係を設置している。相談件数については、件数が多いほど気軽に相談しやすいともとれるし、相談に来るほど状況が悪い人が多いともとれるので、数値として評価が難しいと考えている。

(会議後確認)

武雄市生活自立支援センター（社協）への委託事業として、生活自立支援、家計改善支援、就労準備支援を行っている。

今後も社協と連携を図り、生活困窮の支援に努めたい。

(委員 H)

○KPI とは何の略か。

⇒事務局) 重要業績評価指標 (Key Performance Indicator) の略である。

○外国人観光客数の統計の取り方は。

⇒事務局) 旅館の宿泊人数や、観光施設で把握されている人数を提供いただいている。

(委員 A)

○フードバンクや衣服の回収について市として取り組む予定があるか。

⇒事務局) 現在は、民間団体の方で実施されているもののみである。衣服については、社会福祉協議会や子育て支援センターで実施している。

(委員 I より補足)

生活困窮家庭向けの子ども服については、おもやいでも実施されている。

(会議後確認)

現在、社会福祉協議会で衣服の回収・譲渡は行われていない。

(委員 B)

○地域格差、特に人口減少している地域に対する施策についてどのように考えるか。

●人口の減少について、地域差がかなり出ているように感じる。特に、水害が続いた地域の空き家、空地が非常に目立っているのも気になっている。人口が減るといろんなことが立ちいかなくなってしまう。例えば、区費など会計面でも非常に厳しくなってくる。

⇒事務局) 周辺部対策はこれから大事になってくるところであると考える。総合戦略の前段として人口ビジョンを策定する予定であり、各町のビジョンも示したうえで、どのような対策が必要なのかという点を示していきたいと考えている。

(2) 第3期 武雄市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について

事務局より概要説明。

(委員 B)

○基本目標⑤(4) 具体的事業の中に、競輪事業が記載されているのはどういった理由か。

⇒事務局) 競輪事業の推進による財源の確保を意図したものである。他にも、ふるさと納税による寄付額の増など増やせるものは増やし、行政の無駄は省く取組により効率的な行政の運営を目指す。

(委員 C)

○基本目標④に歴史資料のデジタルアーカイブ公開とあり、デジタル活用の必要性は分かるが、焼き物など、実物に触れる機会についてはどう考えるか？

⇒事務局) 基本目標③(4)に身近に感じるとあるとおり、伝統芸能、文化財等に触れる機会を増やす等、文化を身近に感じる取り組みは必要と考える。その上でデジタルが使えるところは積極的に使いたいと考えている。

(委員 E)

○17ページのはなまる学習の取り組みをさらに進化させるとはどういったことを考えているのか。

●はなまる学習がスタートしてから10年になり、意向調査が実施された。結果として、これまで市内全校で実施してきたものが一部の学校では実施しないところもある。進化というのはそぐわないのではないか。

⇒事務局) 「～進化させる」は市民から頂いた意見の一部であり、市民意見を反映させた結果、「～学びの場づくり」という具体的な施策を設定している。

(委員 G)

○はなまる学習について、本当に効果が出たのか、事業の細やかな検証と市民に対する説明が必要ではないか。

⇒事務局) 今年度が導入10年目であるため検証を行っているところである。教育委員会にも頂いたご意見を共有する。

(会議後確認)

導入10年目を迎えるに先立ち、昨年、学識経験者（大学教授）や学校教職員（小中学校）、地縁団体の代表者（区長会、婦人会、老人会）、PTA等で構成する官民一体型学校評価委員会を設置し、事業の評価・検証が行われた。事業の評価検証は、児童、教職員、地域学校協働本部などへのアンケートを基に多角的に行われ令和7年度以降の事業の在り方について提言を頂いた。検証の結果及び提言については、議会、教育委員会、代表区長会、各町区長会、公民館長会、校長会、などに説明を行ったほか、市報（R6.7月号）やHPや公式SNS等で情報発信を行い、マスメディア（NHK佐賀、佐賀新聞）等にも取り上げていただいたことで、広く市民の皆様に情報提供を行った。

(委員 C)

○第3期の基幹事業（案）で、「みんなで育てる文化のまちづくり事業」とあり、説明の中で令和9年度の新文化交流施設の開館をあげられたが、第3期総合戦略の計画期間は令和7年度からであるため、令和7、8年度についてはどうなるのか。

⇒事務局) 新文化交流施設開館だけでなく、まちじゅうアート事業などをを行いながら、文化のまちづくりを推進していく。

(委員 H)

○海外誘客の促進が3期の具体的施策からなくなっているが、今後どのようにしていくのか。

●現在、海外では日本酒の販売が盛んである。佐賀県の日本酒を仕入れたいというところが多く、『能古見』や『鍋島』は有名である。温泉、日本酒、陶磁器など伝統もある

⇒(事務局) 具体的施策には挙がっていないが、例えば基本目標②の中に地場産業の基盤づくりとあるが、観光は武雄市の地場産業であると認識しているため、ここで方向性を示していければと考える。

(委員 I)

●まちづくり未来会議について、人数を集めることも必要だが、若い世代にも日頃から地域に関わっていただくための施策が必要と考える。ライフスタイルの延長でつながるような、若い世代の人たちのネットワークを形成することにより、市民からも相談しやすく、市からも声をかけやすい環境ができるのではないか。

⇒事務局) 今回、ワークショップを開催するにあたり、人集めは大変苦慮したところである。

提起いただいたネットワークを形成するような取り組みについて今後模索していきたい。

4 閉会

長時間に渡り、貴重なご意見等ありがとうございました。

いただいた意見は全序的に共有しながら、今後の取組に生かしていきます。

以上をもちまして、懇話会を終了致します。本日は誠にありがとうございました。